

工業会活動

2025年度（令和7年度）

航空機生産・輸出・受注額 見通し

当工業会は、会員企業25社の協力を得て本年7月末時点における「航空機生産・輸出・受注額見通し」の調査を実施した。

2019年度に1.8兆円台に達した生産額は、新型コロナウイルスの影響による航空機需要の減少により2021年度に約0.9兆円台まで下落したものの、2022年度からは再度増加傾向を示し、2025年度には過去最大の約2.3兆円を超過する見通しとなるなど回復期を経て増加傾向が持続していることが確認された。

また、受注額も2020年度に1.1兆円台まで下落したが、2021年度から増加に転じた後、2024年度は2.7兆円に迫ったが、2025年度は若干減少し2.2兆円規模となる見通しであることが、今回の調査で示された。主な要因は戦略3文書（2022年12月閣議決定）に基づく防衛力整備計画が折り返しの時期に達し、契約ベースでの防衛予算が収束の方向にあるためと推測される。

今後については、防衛向けでは当面5か年度の経費総額・整備数量を定めた防衛力整備計画に基づきP-1哨戒機・C-2輸送機等の固定翼機やUH-2多用途ヘリコプター、SH-60L哨戒ヘリコプター等の回転翼機の調達に伴う安定的生産と次期戦闘機の開発推進が期待される。民間向けでは航空旅客需要がコロナ前水準の回復から成長へと順調に推移しており、これを受け、特にエンジン関連は新製エンジン、同補用部品の伸長により増加基調が継続すると見込まれる。一方、機体関連では、広胴機で機体構造Tier1として地位を確立している日本企業にとってはボーイングの製造品質を巡る対応を注視しているところである。

こうした状況下、不透明な国際経済の状況、世界を取り巻く安全保障や環境対応などの様々な課題には注意を払う必要があるものの、2025年度以降の航空機生産の動向は引き続き堅調に推移するものと想定される。

調査結果の概要について、以下に記す。

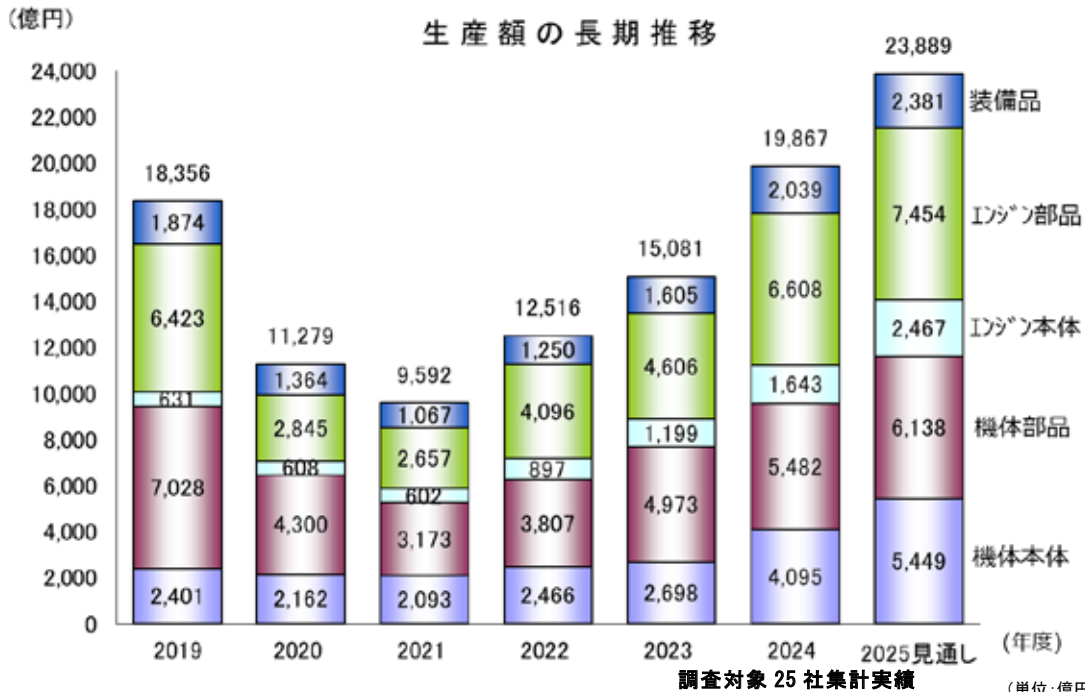
1. 生産額

比4,786億円（31.7%）の増となった。

(1) 全般

◇「2025年度見通し額」は2兆3,889億円で前

年比4,022億円（20.2%）増の見通し。



年度 区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025見通し
機体本体	2,401	2,162	2,093	2,466	2,698	4,095	5,449
機体部品	7,028	4,300	3,173	3,807	4,973	5,482	6,138
(小計)	(9,429)	(6,462)	(5,266)	(6,273)	(7,671)	(9,577)	(11,587)
エンジン本体	631	608	602	897	1,199	1,643	2,467
エンジン部品	6,423	2,845	2,657	4,096	4,606	6,608	7,454
(小計)	(7,053)	(3,453)	(3,259)	(4,993)	(5,805)	(8,251)	(9,921)
装備品	1,874	1,364	1,067	1,250	1,605	2,039	2,381
計	18,356	11,279	9,592	12,516	15,081	19,867	23,889

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇2024年度は、「機体本体」は防衛向けP-1固定翼哨戒機・C-2輸送機、UH-60J救難ヘリコプターなどの増により1,397億円増の4,095億円、「機体部品」がBoeing向け777X/787用部品増等により509億円増の5,482億円で、「機体合計」では1,906億円増の9,577億円となった。

◇2025年度は、「機体本体」は防衛向けUS-2飛行艇、UH-2多用途ヘリコプターなどの

増により1,354億円増の5,499億円、「機体部品」はBoeing向け777/777X/787用部品増等により656億円増の6,138億円、「機体合計」では2,010億円増の1兆1,587億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2024年度は、「エンジン本体」は防衛向け並びに海外向けエンジン修理の増等により444億円増の1,643億円、「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により2,002億円増の6,608億円で、「エンジン合計」

では2,446億円増の8,251億円となった。

◇2025年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジン製造及び防衛向け並びに海外向けエンジン修理の増等により824億円増の2,467億円、「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により846億円増の7,454億円で、「エンジン合計」では1,670億円増の9,921億円の見通しである。

③装備品

◇2024年度は、民間機向け内装品、防衛向け装備品の増等により、434億円増の2,039億

円となった。

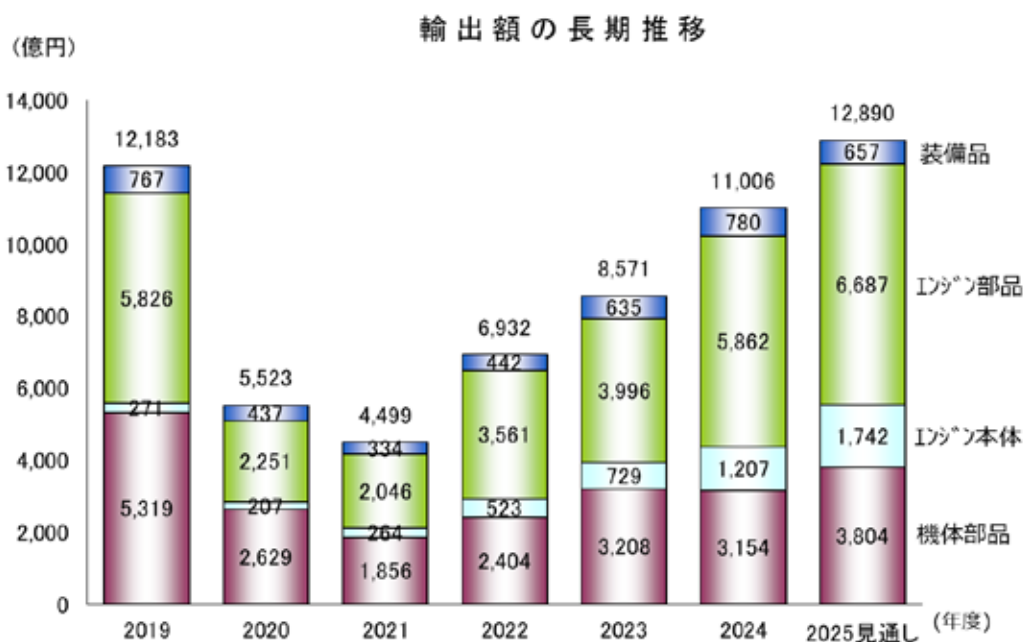
◇2025年度は、民間機向け内装品、防衛向け装備品の増等により、342億円増の2,381億円の見通しである。

2. 輸出額

(1) 全般

◇「2024年度実績額」は1兆1,006億円で前年比2,435億円（28.4%）の増となった。

◇「2025年度見通し額」は1兆2,890億円で前年比1,884億円（17.1%）増の見通し。



(単位: 億円)

年度 区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025見通し
機体本体	0	0	0	2	2	3	0
機体部品	5,319	2,629	1,856	2,404	3,208	3,154	3,804
(小計)	(5,319)	(2,629)	(1,856)	(2,406)	(3,210)	(3,157)	(3,804)
エンジン本体	271	207	264	523	729	1,207	1,742
エンジン部品	5,826	2,251	2,046	3,561	3,996	5,862	6,687
(小計)	(6,096)	(2,458)	(2,309)	(4,083)	(4,726)	(7,069)	(8,429)
装備品	767	437	334	442	635	780	657
計	12,183	5,523	4,499	6,932	8,571	11,006	12,890

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連（機体部品のみ）

◇2024年度は、Boeing向け767/777部品減等により54億円減の3,154億円となった。

◇2025年度は、Boeing向け777/777X/787用部品増等により650億円増の3,804億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2024年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増等により478億円増の1,207億円、「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により1,866億円増の5,862億円で、「エンジン合計」では2,343億円増の7,069億円となった。

◇2025年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増等により535億円増の1,742億円、

「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により825億円増の6,687億円で、「エンジン合計」では1,360億円増の8,429億円の見通しである。

③装備品

◇2024年度は、民間機向け内装品の増等により145億円増の780億円となった。

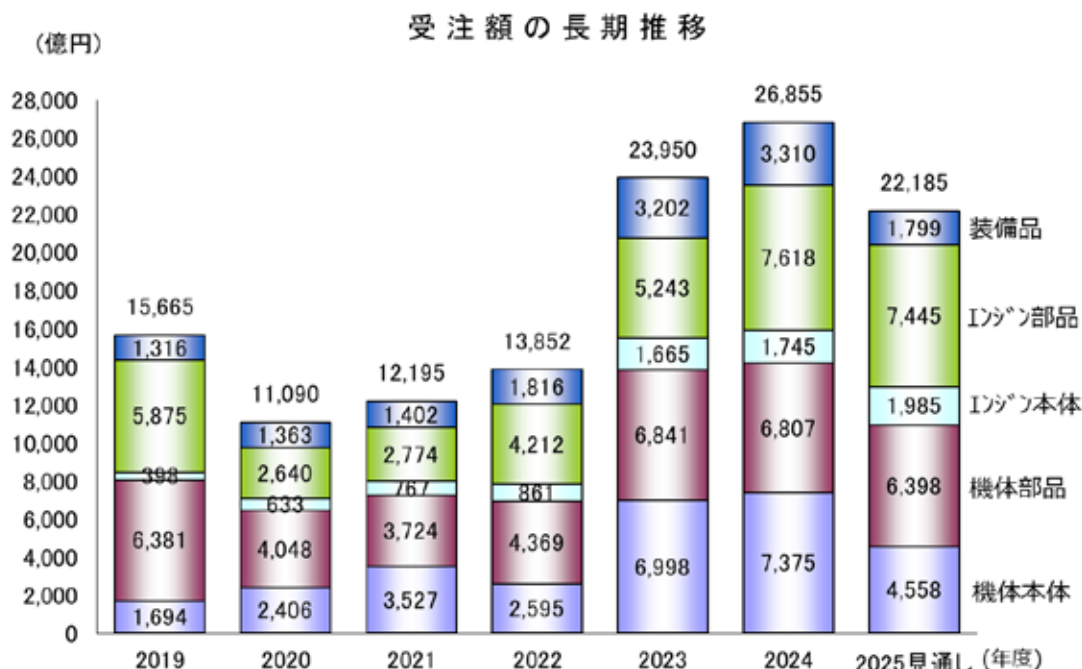
◇2025年度は、民間機向け内装品の減等により123億円減の657億円の見通しである。

3. 受注額

(1) 全般

◇「2024年度実績額」は2兆6,855億円で前年比2,905億円（12.1%）の増となった。

◇「2025年度見通し額」は2兆2,185億円で前年比4,670億円（17.4%）減の見通し。



(単位:億円)

年度 区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025見通し
機体本体	1,694	2,406	3,527	2,595	6,998	7,375	4,558
機体部品	6,381	4,048	3,724	4,369	6,841	6,807	6,398
(小計)	(8,075)	(6,454)	(7,251)	(6,964)	(13,839)	(14,182)	(10,956)
エンジン本体	398	633	767	861	1,665	1,745	1,985
エンジン部品	5,875	2,640	2,774	4,212	5,243	7,618	7,445
(小計)	(6,274)	(3,273)	(3,542)	(5,073)	(6,908)	(9,363)	(9,430)
装備品	1,316	1,363	1,402	1,816	3,202	3,310	1,799
計	15,665	11,090	12,195	13,852	23,950	26,855	22,185

(注)四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇2024年度は、「機体本体」は防衛向けCH-47輸送ヘリコプター、UH-2多用途ヘリコプター等の増により377億円増の7,375億円、「機体部品」が防衛向け部品修理の減等により34億円減の6,807億円で、「機体合計」では343億円増の1兆4,182億円となった。

◇2025年度は、「機体本体」はCH-47輸送ヘリコプター、SH-60L哨戒ヘリコプターの減等により2,817億円減の4,558億円、「機体部品」が防衛向け補用品の減等により409億円減の6,398億円で、「機体合計」では3,226億円減の1兆956億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2024年度は、「エンジン本体」は海外向けエンジン修理の増等により80億円増の1,745億円、「エンジン部品」が海外向け部品の増等により2,375億円増の7,618億円で、「エンジン合計」では2,455億円増の9,363億円となった。

◇2025年度は、「エンジン本体」は海外向けエンジン修理の増等により240億円増の1,985億円、「エンジン部品」が防衛向け補用品の減等により173億円減の7,445億円で、「エンジン合計」では67億円増の9,430億円の見通しである。

③装備品

◇2024年度は、防衛向け装備品や民間機向け内装品の増等により108億円増の3,310億円となった。

◇2025年度は、防衛向け装備品の減等により1,511億円減の1,799億円の見通しである。

<調査対象企業：25社> (五十音順)

IHI、沖電気工業、川崎重工業、小糸製作所、島津製作所、昭和飛行機工業、シンフォニアテクノロジー、新明和工業、ジャムコ、SUBARU、住友精密工業、多摩川精機、東京計器、東京航空計器、東芝、ナブテスコ、日本電気、日本飛行機、日本航空電子工業、富士通、三菱重工業、三菱電機、三菱プレジジョン、横浜ゴム、YDKテクノロジーズ

[(一社) 日本航空宇宙工業会 業務部部長 森田 智也]